

文部時報

昭和五十六年九月
第一二五二号

特集 我が国の教育水準

我が国の教育水準……………諸澤 正道…4

▽座談会

戦後三〇年の教育の推移……………8

(出席者) 奥田 真丈・佐藤 孜・荒川 潤
永井多恵子・(司会) 上野 保之

調査統計と教育……………森 隆夫…24

教育費と我が国の教育水準……………市川 昭午…30

生涯教育と我が国の教育水準……………山本 恒夫…36

▽解説・資料

昭和五五年度「我が国の教育水準」の概要……………大臣官房調査統計課…42

随想

「我が国の教育水準」初刊行のころ……………笹岡 太一…70

新連載 唱歌のあゆみ

唱歌のルーツを尋ねて……………大和 淳二…85

連載第10回(最終回)

国民生活とエネルギー

核融合研究の総合的推進……………内田岱二郎…88

●文部省のまど

行政改革に関する

第一次答申について……………大臣官房企画室…74

昭和五七年度

文部省所管概算要求の概要

……………大臣官房会計課…82

●文部時報表紙絵募集

……………23

文化財紹介 ●伏見天皇宸翰後撰和

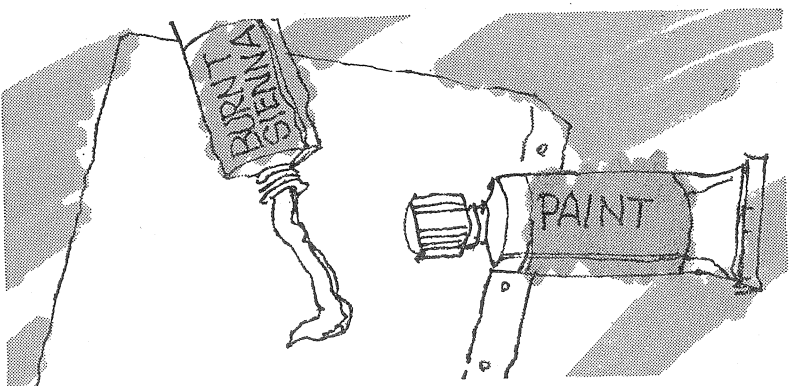
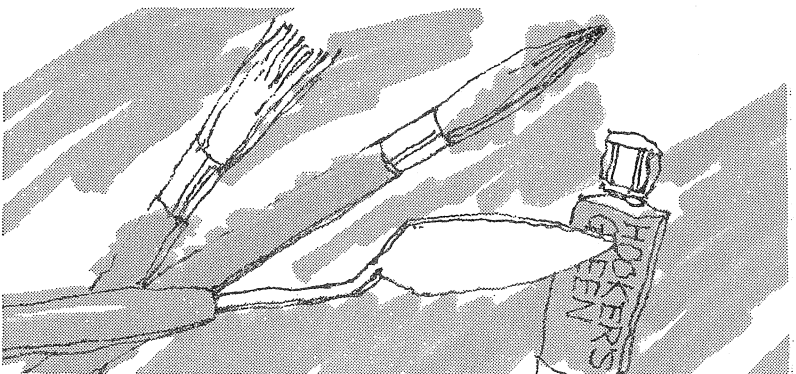
歌集巻第四残巻(筑後切)

名作シリーズ ●秋草図屏風

(解説) 小林 忠…(41)

次号目次……………96

表紙 小林徹子 カット 内部敬生



新連載

唱歌のあゆみ

唱歌のルーツを尋ねて

大和淳二

世はまさにカラオケ時代の観があるほどに、歌うことがこれほどさかんになった時代はなかったであろう。多くの人々の哀歓をこめて今宵もまたマイクを手に歌われる歌声が巷に流れる。ほんの二、三年前までは、聴き手に回ることだけが唯一の音楽とのふれ合いであったかのように過ぎてきた日本人の生活の舞台も、いまは大きく転回しようとしている。若い層はギターを掻き鳴らしながら歌い、そして中、高、熟年といわれる層はマイク片手にナツメロに酔う。

このような平均的な日本人の、歌との結びつきのそもそものは、いつ頃から、どのようにして芽生えたのであるか。そのとき、どのような先覚者、先導者の苦心と活動があったのであろうか、唱歌のルーツを尋ねて、その源流に棹さしてみることにはしたい。

一 唱歌教育の源流

今日わが国で、専門家は別として一般の人々が好んで歌う歌は、日本古来の民謡系の歌と、長調、短調の調性

を中軸とする明治以降に親しんできた西欧系の歌とに大別できる。

普通、唱歌という場合には、後者の西欧系の旋律構造による歌をさしている。日本人が感覚的に好んで歌う五音階、いわゆるペンタトニックの旋律にしても、大別すれば西欧系音階のヨナ抜き音階で組み立てられている。

今、求めようとしている唱歌のルーツは、もち論この系列のものについてである。

時は明治の八年（一八七五）若冠二四歳で官立愛知師範学校長の職にあつた伊沢修二がアメリカ・ボストン師範学校への留学に旅立つ。目的は「師範学科取調ノ為メ米国に差遣」ということである。日本を出発する六か月前の同年二月、時の文部大輔田中不二麻呂あての意見書に、その抱負と意気込みを見ることが出来る。

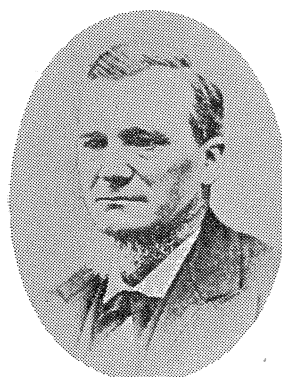
「唱歌ノ益タルヤ大ナリ、第一知覚神経ヲ活発ニシテ精神ヲ快樂ニス、第二人心ニ感動力ヲ発セシム、第三発音ヲ正シ呼吸ヲ整フ……我文部省早ク此ニ見アリテ小学教科中唱歌ヲ載スト雖モ、未タ実ニ其科ヲ備フルモノア

ラス……」というような状況を述べ、広く先進の国の実情を視察し、我が国に導入しようとする熱烈な意気を感じることが出来る。

やがて、渡米後の明けて九年（一八七六）ボストンでルーサー・ホワイティング・メーソンと運命の出会いを



伊沢修二
(1851~1917)



Mason, Luther Whiting
(1828~1896)

することになる。

二 伊沢修二とメーソンの出会い

伊沢修二とメーソンとの二人のコンビが、唱歌教育の礎を築くために果たした役割りの大きさは、はかり知れないものがある。やがて一一年四月、メーソンと接触後二年ほど経た頃であるが、次のような上申を田中文部大輔あてに提出している。「彼我相合シ一種ノ楽ヲ興サハ、我公学ニ唱歌ノ科モ追々相立候様可相成ト存候、依テボストン公学音楽監督メーソン氏ト相議シ、其編著音楽掛図ニ依リ……」と述べ、更に具体的な教師を嘱任すべきこととして「斯ク教師タルヘキ人ハメーソン氏ニ如クモノナカルヘシト思ハル……」と述べ強力にメーソンの登用を具申している。

その結果、明治一二年六月、文部省との間に二年間の

契約での招聘が正式決定、翌一三年三月末から一五年七月まで伊沢修二と共に日本の唱歌教育の草創期の建設に奔走することになる。

当時、音楽取調掛という機関を中心に二人の遺した業績には多大のものがあるが、唱歌のルーツとして特筆すべきことは、「小学唱歌集」の刊行であった。

唱歌を教える先生も不在、教科書も皆無の状況の中で、制度だけが先行した当時にあつては、教科書作成が急務であつたことは想像に難くない。刊行の趣旨は初編の冒頭に格調高く述べられており、それは当時の教育全般について、また、特に唱歌教育の考え方について理解する貴重な資料としての価値をもっている。このことについては、次回にふれることにする。

(初等中等教育局視学官)

特集 現代の博物館

生涯教育と地方博物館

平山敏治郎

座談会

博物館を語る——その現状と展望——

(出席者)

青木 国夫・千地 万造

下津谷達男・嘉門 安雄

(司会) 五十嵐耕一

我が国の博物館活動

毛利 正夫

海外諸国の博物館

伊藤 俊夫

解説・資料

統計でみる我が国の博物館

文部省社会教育局社会教育課

現地ルポ

上野の山は博物館

山本 清

編集後記

▽「我が国の教育水準」(通称・教育白書)は、進学率、教員一人当たり生徒数、生徒一人当たり教育費など、教育の量的側面に關する尺度で測定したものを、時系列推移をみ、地域間比較、国際比較することによって教育の実態と課題を明らかにするものであるが、今年の白書は、戦後の新学校制度発足後三〇年間にわたる変遷を概括的にまとめていること、これを背景にしてここ数年間に実施された重要な教育施策を紹介していること、学校教育に加えて社会教育、体育・スポーツ、文化及び教育・文化の国際交流の分野を取り上げていることなどを特徴としています。今月は、このような白書の内容を、論文や座談会などによって、幅を広げ、興行きの深いものとしていただきました。

▽白書は五年ごとの刊行ですが、文部時報は、文部省年報、文部広報などとともに文教施策の展開を総合的に取り上げて広くお知らせする役割を果たしています。

そこで、本誌では、内容充実のための一つの方法として本号に綴じ込みのアンケートを用意しました。その結果は今後の編集上の参考にしたいと考えておりますので、回答をお寄せください。(企画室)

MEJ 61 月刊 「文部時報」 9 月号 第1252号

著作権 昭和56年9月5日 印刷
所有 昭和56年9月10日 発行

文 部 省

発行所 株式会社きようせい

定価 250円 (〒50円)

本社 東京都中央区銀座7丁目4番12号

年間購読料 3000円 (〒共)

(郵便番号 104)

(営業所) 東京都新宿区西五軒町52番地

(郵便番号 162)

電話 東京 (268) 2141 (代表)

振替口座 東京9-161番

印刷所 株式会社行政学会印刷所

- ・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます
- ・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店にお願いします

文部時報

昭和五十六年十月
第一二五三号

特集 現代の博物館

生涯教育と地方博物館……………平山敏治郎…4

▽座談会

博物館を語る——その現状と展望——……………8

(出席者) 千地 万造・嘉門 安雄・下津谷達男

青木 国夫・(司会) 五十嵐耕一

我が国の博物館活動……………毛利 正夫…24

海外諸国の博物館……………伊藤 俊夫…31

●報告と提案

博物館と学校サービス(平塚市博物館…37)／博物館と郷土理解(秋田県立博物館…40)／博物館の館外サービス(沖縄県立博物館…45)／博物館の交流(大原美術館…48)



▽解説・資料

統計でみる我が国の博物館……………社会教育局社会教育課…53

▽現地ルポ

上野の山の博物館巡り……………山本 清…63

随想

わたくしと動物園……………古賀 忠道…68

▽研究報告

国民性と国際比較……………林 知己夫…70

中学・高校生の数学の成績……………沢田 利夫…78

連載第2回 唱歌のあゆみ

明治における唱歌教育三つの道標……………大和 淳二…93

●文部省のまじ

大学通信教育の基準に関する

大学設置審議会の答申について

……………大学局高等教育計画課…83

昭和五十六年度

学校基本調査速報…大臣官房調査統計課…88

●海外教育ニュース…大臣官房調査統計課…91

オルタナティブ・スクールは生き残るか?

●企業の教育投資状況(アメリカ合衆国)／八

○年代前半の連邦の教育政策(西ドイツ)

●昭和五十七年度科学研究費補助

金「研究成果刊行費」申請計

画の公募について

●文化財紹介●大内宿伝統的建造物群保

存地区(天田起雄)

●名作シリーズ●東武画像(小林 忠…52)

●次号目次……………96

表紙 藤沼和枝 カット 赤羽根秀一

唱歌のあゆみ

連載第二回

明治における唱歌教育三つの道標

大和 淳二

前号でふれたように、明治一三年にメーソンを招聘し、ここに伊沢、メーソンという強力なコンビを得て、音楽取調掛の活動が一段と活発になった。

今回は、そこで刊行された我が国最初の唱歌教科書ともいえる「小学唱歌集」を初めとして、当時を代表する歌集の緒言に眼を向けて、そこに語られていることから、唱歌教育草創期における考え方をふり返ってみたい。

先ず「小学唱歌集」(全三冊和綴木版刷明治一四一七一年)の片鱗を理解するために、その中の曲目のうち今日も多くの人々に親しまれているものを拾ってみよう。

初編では「蝶々」「螢」、第二編では「霞か雲か」、第三

編では「あふげば尊とし」「才女」(テニローリーの曲)「菊」(庭の千草の曲)などがある。このうち「蝶々」及び「螢」の第三、四節の歌詞については、今日でも問い合わせが多く、関心を持たれる向きも多いようなので、次に記してみる。(仮名遣い原文通り)

「蝶々」

一、てふく／＼てふく／＼。菜の葉にとまれ。

なのはにあいたら、桜にとまれ。

さくらの花の、さかゆる御代に、

とまれよあそべ、あそべよとまれ。

二、おきよ／＼。ねぐらのすずめ。

朝日のひかりの、さしこぬさきに。

ねぐらをいでて、こずゑにとまり、あそべよすずめ、うたへよすずめ。

「螢」(螢の光)

- 三、つくしのきはみ、みちのおく、うみやまとおく、へだつとも、そのまごころは、へだてなく、ひとつにつくせ、くのために。
- 四、千島のおくも、おきなほも、やしまのうちの、まもりなり。いたらんくくに、いざおしく。つとめよわがせ、つつがなく

このような歌曲を含めた「小学唱歌集」の緒言は、今日の音楽教育の原点として高らかな格調を謳っており、重要な意味をもつものなので、次にその全文を転記してみる。

凡ソ教育ノ要ハ知育德育体育ノ三者ニ在リ而シテ小学ニ在リテハ最モ宜ク徳性ヲ涵養スルヲ以テ要トスヘシ今夫レ音楽ノ物タル性情ニ本ツキ人心ヲ正シ風化ヲ助クルノ妙用アリ故ニ古ヨリ明君賢相特ニ之ヲ振興シ之ヲ家國ニ播サント欲セシ者和漢欧米ノ史冊歴々徴スヘシ曩ニ我政府ノ始テ

第三は、検定制度から国定教科書制度への転換期に際して、教科書制度に関連して教科の使命の重大さを提唱したものであり、この三点は唱歌教育の推移を知る道標と見ることができ。

以下、第二、第三の提唱に関する緒言を引用してみる。先ず明治三三年刊行の「教科適用幼年唱歌」(納所弁次郎、田村虎蔵共編)には次のように書かれている。

『明治照代の奎運愈々開くるにつれて、音楽の道も次第に進歩発達を来たし、学校唱歌に関する著書編纂は、今や実に汗牛充棟も留ならず、盛んなりと謂ふべし、然り而して其多くは、所謂名家大家のものせる歌曲なるが故に、概ね典麗高尚にして、美は美、善は善なりと雖も教育的教授上、小学児童に適當なる唱歌教材の選択に困難を感じるは普く吾人の実地経験する所なり。故に其題目、事實は、他教科との關係を保ち難く、唱歌者たる児童は、遂に其歌詞の意味を会得する能はざるもの比々皆然りとす。これ畢竟斯道の一大欠点にして、夙に教育者識者の遺憾とする所なり……』

つまり、歌詞に対する革新を提案する意見であり、大正期の「赤い鳥」運動とは内面的な相違はあるとして

学制ヲ頒ツニ方リテヤ己ニ唱歌ヲ普通学科ニ掲ケテ一般必須ノ科タルヲ示シ其教則綱領ヲ定ムルニ至テハ亦之ヲ小学各等科ニ加ヘテ其必ス学バサル可ラサルヲ示セリ然シテ之ヲ学校ニ実施スルニ及ンデハ必ス歌曲其当ヲ得声音共正ヲ得テ能ク教育ノ真理ニ悖ラサルヲ要スレハ此レ其事タル固ヨリ容易ニ舉行スヘキニ非ス我省此ニ見ル所アリ客年特ニ音楽取調掛ヲ設ケ充ルニ本邦ノ学士音楽家等ヲ以テシ且遠ク米国有名ノ音楽教師ヲ聘シ百万討究論悉シ本邦固有ノ音律ニ基ツキ彼長ヲ取り我短ヲ補ヒ我学校ニ適用スヘキ者ヲ選定セシム爾後諸員ノ協力ニ頼リ稍ヤク数曲ヲ得之ヲ東京師範学校及東京女子師範学校生徒并兩校附属小学生徒ニ施シテ其適否ヲ試ミ更ニ取捨選択シ得ル所ニ隨テ之ヲ録シ遂ニ歌曲數十ノ多キニ至レリ実ニ之ヲ割削ニ付シ名ケテ小学唱歌集ト云是レ固ヨリ草創ニ属スルヲ以テ或ハ未タ完全ナラサル者アラント雖モ庶幾クハ亦我教育進歩ノ一助ニ資スルニ足ラント云爾 明治十四年十一月

音楽取調掛長 伊沢修二謹識

明治期においては、代表的な曲集の緒言、序文等から唱歌教育について三つの大きな特色を概観することができる。その一は前述したそもその発端に関するものであり、第二は花鳥風月を美辞麗句で飾った歌詞に対する反省に基づいて、言文一致歌詞を提唱したものであり、

も、一つの転換への開幕とみられる。

続いて、第三の提唱は「尋常小学唱歌教授書」(明治三九年刊行佐々木、納所、田村共著)の編纂趣旨の文面に見られる。

『教科書の国定となりしより、小学校に於ける諸教科の材料は、比較的適當なるものを供給せらるることとなり、ここに教材の一革新と、教授方法の一進歩とを来せり。然るに、唱歌科のみは、その教育的価値の著大を唱ふるもの、日に多きを加ふるにかかはらず、その教材、及び教授方法につきては、いまだ深き研究を遂げたるものあるを聞かず。しかのみならず、教科書国定の今日に於てすら、この科のみは、その趨勢にもれて、今なほその噂をだにきかず。いかに、明治聖代の一欠点にはあらずや。いかに、この科のために心細き限にはあらずや。』

ここでは、悲憤慷慨調に、唱歌教科書が国定化の波に乗れなかったことを述べているが、富国強兵路線を突走っている明治の時代の特質を察する一つの断面として受けとめることができる。

(文部省初等中等教育局視学官)

次 号 目 次

特集 常用漢字表と国語

話しことばと書きことば

遠藤 慎吾

座談会

常用漢字表をめぐる

(出席者) 三根谷 徹・林 大

波部 昇一・山本雄二郎

(司会) 室屋 晃

国語の表記と漢字

阪倉 篤義

今後の国語はどうあるべきか

外山滋比古

国語教育と漢字

瀬戸 仁

解説

常用漢字表について

文化庁文化教育部国語課

常用漢字表に基づく

小・中・高等学校の漢字指導

初等中等教育局小学校教育課

編 集 後 記

▽「博物館」のイメージ、と言われたとき、いったい幾つぐらいを思い浮かべることができるでしょうか。

文部省では、ほぼ三年に一回、「社会教育調査」を実施しており、ここでは博物館を総合、科学、歴史、美術、野外の各博物館と動物園、植物園、動物園、水族館との合計九種類に分類しています。

▽数が多いのは歴史、美術の両博物館ですが、逆に少ないのは野外博物館四、動物園一〇となっています。

野外博物館とは、戸外の自然の景観及び形態を、また動物園とは動物・植物をそれぞれ育成してその生態を展示するものをいいます。国立科学博物館付属自然教育園(東京)、川崎市立民家園(神奈川)などは前者の例であり、また、信州大学教育学部付属志賀自然教育研究施設(志賀高原)は後者の例です。

▽国立の博物館の大部分は当然ながら文部省所管のもの(大半は国立大学の付属施設)ですが、他省庁所管のものには通信博物館と労働省産業安全研究所付属産業安全技術館とがあります。博物館特集を機に数少ない博物館の一端を記してみました。(企画室)

MEJ 61 月刊 「文部時報」 10 月号 第1253号

著作権
所有

文 部 省

昭和56年10月5日 印刷
昭和56年10月10日 発行

発行所 株式会社きようせい

定価 250円 (〒50円)

本 社 東京都中央区銀座7丁目4番12号
(郵便番号 104)

年間購読料 3000円 (〒共)

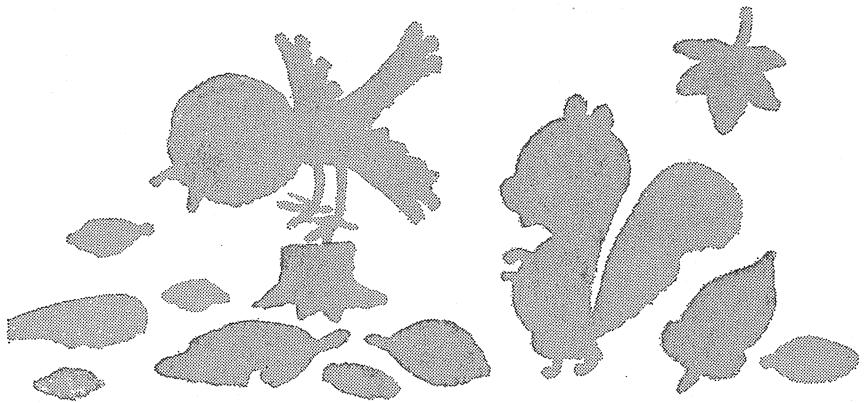
(営業所) 東京都新宿区西五軒町52番地
(郵便番号 162)

電話 東京 (268) 2141 (代表)

振替口座 東京9-161番

印刷所 株式会社行政学会印刷所

- ・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます
- ・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはもよりの書店をお願いします



文部時報

昭和五十六年十一月
第一二五四号

特集 常用漢字表と国語

話しことばと書きことば 遠藤 慎吾 4

▽座談会

常用漢字表をめぐる 8

(出席者) 山本雄二郎・林 大・三根谷 徹

渡部 昇一・(司会) 室屋 晃

国語の表記と漢字 阪倉 篤義 23

文体と「話」体の確立 外山滋比古 29

国語教育と漢字 瀬戸 仁 35

▽解説

常用漢字表に基づく小・中・高等学校の漢字指導

..... 初等中等教育局小学校教育課 41

常用漢字表について 文化庁文化教育部国語課 45

▽資料

常用漢字表ほか 文化庁文化教育部国語課 53

随想

英和大辞典 奈須 紀幸 80

アメリカの中・高校における

校内暴力とその原因について 石橋 一弥 82

連載第3回

唱歌のあゆみ

明治の唱歌 大和 淳二 92

●文部省のまど

大学教育の社会への開放と

国際化のために 大学局大学課 87

●海外教育ニュース 大臣官房調査統計課 89

社会科カリキュラムの新しい動き (アメリカ

合衆国) / イギリス初の「第三世代の大学」

発足か (イギリス)

●新刊紹介

「英文MOMBUSHO」 91

文化財紹介 ●土 偶 (安藤孝一)

名作シリーズ ●浅間山図

(解説) 原田 実 22

■次号目次 96

表紙 藤沼和枝 カット 内部敬生



唱歌のあゆみ

明治の唱歌

連載第三回

大和淳二

先号までに、日本の唱歌教育の草創期に活躍した伊沢修二、メーソンの業績にふれ、続いて当時の著名な唱歌集の序文等から、唱歌教育についての考え方などを探って見た。

今回は、草創期に次ぐ時期と考えられる明治中期から後期にわたっての動向を、主として唱歌教材を通して概観してみることにしたい。

♪ この時代は、いわば多様な検定教科書の時代と捉えることができる。つまり、文部省が直接編纂を始めた「尋常小学読本唱歌」及び「尋常小学唱歌」の時代に移る直前までで、いわゆる検定教科書百花繚乱の様相を留

めている時代である。

その当時出版された曲集に収められている唱歌で、今日も多くの人々に記憶され、愛唱されているものも数多くあげることができる。

例えば「故郷の空」(「明治唱歌」21・5)はスコットランドの民謡を取り入れ、特色のあるスコットランドリズムを日本語に合うように多少修正して取り上げられたものである。

一 夕空晴れて秋風吹き
月影落ちて鈴虫鳴く

思えば遠し故郷の空
ああわが父母
いかにおわす
澄みゆく水に秋萩たれ
玉なす露は
すすきにみつ
思えば似たり故郷の野辺
ああわが兄弟
たれと遊ぶ

同じく「明治唱歌」には、フォスターの曲で後に「故郷の人々」と呼ばれるものが、「あわれの少女」という題名で出ている。

一 吹き捲く風は顔を裂き
みるみる雪は地にみちぬ
あわれ素足の乙女子よ
別れし母を呼ぼうらん
二 つづれのきぬのやれまより
身を刺す寒さいかほどぞ
あわれぬれゆく乙女子よ
世になき家をたずぬらん

これらの歌を取めた「明治唱歌」は、明治二年から同三年にかけて大和田建樹、奥好義の編纂になるもので、前記二曲の例からも解るとおり、外国の曲に歌詞づけしたものが多く、これは全編六巻で構成されているが、明治二八年九月一四日付文部省検定済の「明治唱歌抜萃小学唱歌」(全一冊)が「明治唱歌」を親本として刊行されている。また、同時に「明治唱歌抜萃中等唱歌」も作られているが、これらは共に明治期を代表する検定教科書とみることができよう。

やや遅れて「新編教育唱歌集」(二九年)に掲載された「港」(旗野^{たけの}十一郎^{ひつじ}作詞、吉田信太作曲)は、後に戦後の教科書「三年生の音楽」にも取り上げられているが、その際には歌詞第二節が③のように改作されている。

一 空も港も夜ははれて、
月に数ます船のかげ。
はしけの通いにぎやかに、
よせくる波も黄金なり。
二 林なしたる櫓^{ほしほ}に
花と見まごう船旗章^{ふねざし}。

積荷の歌のにぎわいて
港はいつも春なれや。

―第二節改作の歌詞―

響く汽笛に夜は明けて、
いつか消えゆく空の星。
大漁の歌も勇ましく、
朝日をあびて船かえる。

このように、戦前、戦後にかけて歌詞が改作された例も多く見られるが、次号にそれらの実例を取り上げてみることにする。

♪ 「文部省ニ於テ著作権ヲ有スルモノ」への移行

明治三十六年四月二十九日、小学校令施行規則の改正が行われ、文部省令第二二号には次のような条文がある。

「第五節 教科用図書 小学校教科用図書中、修身、国語、算術、日本歴史、地理、図画ヲ除キソノ他ノ図書ニ限リ文部省ニ於テ著作権ヲ有スルモノ及文部大臣ノ検定ヲ経タルモノニ就キ府県知事之ヲ決定ス……」と明示され、爾後、明治三十七年度に国語読本、書き方手本、修身、日本歴史、地理の国定教科書が使用され、翌

三八年度に算術、図画、やや遅れて四三年に理科も国定教科書に加えられ、いわゆる国定教科書の全容が整うことになる。以上の経緯からもわかるように、「唱歌」は国定教科書の系列からは外れ、「文部省ニ於テ著作権ヲ有スルモノ」と「文部大臣ノ検定ヲ経タルモノ」の二本立の方向が確定する。

具体的には、前者に該当するものすべては次に示す一覧表のとおりである。

文部省教科書一覧

| 教科書名 | 発行年月日 | 曲数 |
|-------------|----------|----|
| 小学唱歌集 初編 | 明治14年11月 | 33 |
| 小学唱歌集 二編 | 明治16年3月 | 16 |
| 小学唱歌集 三編 | 明治17年3月 | 42 |
| 幼稚園唱歌集 全一冊 | 明治20年12月 | 29 |
| 尋常小学読本唱歌 | 明治43年7月 | 27 |
| 尋常小学唱歌 第一学年 | 明治44年5月 | 20 |
| 尋常小学唱歌 第二学年 | 明治44年6月 | 20 |
| 尋常小学唱歌 第三学年 | 明治45年3月 | 20 |
| 尋常小学唱歌 第四学年 | 大正1年12月 | 20 |
| 尋常小学唱歌 第五学年 | 大正2年5月 | 21 |

| 教科書名 | 発行年月日 | 曲数 |
|-------------------------|---------|---------|
| 高等小学唱歌 全一冊 | 昭和4年 | 29 |
| 新訂 尋常小学唱歌 第一学年 | 昭和7年3月 | 27 |
| 新訂 尋常小学唱歌 第二学年 | 昭和7年4月 | 27 |
| 新訂 尋常小学唱歌 第三学年 | 昭和7年4月 | 27 |
| 新訂 尋常小学唱歌 第四学年 | 昭和7年12月 | 27 |
| 新訂 尋常小学唱歌 第五学年 | 昭和7年12月 | 27 |
| 新訂 尋常小学唱歌 第六学年 | 昭和7年12月 | 27 |
| 新訂 高等小学唱歌 第一学年(男子用・女子用) | 昭和10年3月 | 各22 |
| 新訂 高等小学唱歌 第二学年(男子用・女子用) | 昭和10年3月 | 各22 |
| 新訂 高等小学唱歌 第三学年(男子用・女子用) | 昭和10年7月 | 各24 |
| 国民学校芸能科音楽 上 | 昭和16年3月 | 20(11) |
| 国民学校芸能科音楽 ウタノホン | 昭和16年3月 | 20(12) |
| 国民学校芸能科音楽 うたのほん | 昭和17年3月 | 20(16) |
| 国民学校芸能科音楽 初等科音楽 一 | 昭和17年3月 | 20(16) |
| 国民学校芸能科音楽 初等科音楽 二 | 昭和17年3月 | 20(16) |
| 国民学校芸能科音楽 初等科音楽 三 | 昭和18年2月 | 20(17) |
| 国民学校芸能科音楽 初等科音楽 四 | 昭和18年4月 | 20(17) |
| 高等科音楽 一(男子用・女子用) | 昭和19年4月 | 各13(16) |
| 戦後の文部省編纂教科書 | 昭和22年4月 | 22 |

| | | |
|------------|---------|----|
| 1ねんせいのおんがく | 昭和22年4月 | 22 |
| 2年生のおんがく | 昭和22年4月 | 22 |
| 3年生の音楽 | 昭和22年4月 | 22 |
| 4年生の音楽 | 昭和22年4月 | 22 |
| 5年生の音楽 | 昭和22年4月 | 22 |
| 6年生の音楽 | 昭和22年4月 | 22 |

(十) 曲は祝祭日唱歌等共通曲

このほかに例外的な文部省編纂の歌集として、明治末期に作成された「戦争唱歌」をあげることができる。

当時の風潮をさまざまな動向から推察するとき、他教科の教科書が国定化の方向をたどる時勢にあつて、「唱歌」がその系列に加われなかったことに対する焦燥と読み取れることもできよう。

その一面を物語るものとして「尋常小学読本唱歌」(明治四三年)の刊行をあげることができるが、このことについては次号でふれることにする。

(初等中等教育局視学官)

特集 芸術文化の振興

芸術文化の振興

犬丸 直

てい談

これからの美術館

(出席者) 河北 倫明・倉田 公裕・財津 永次

文化会館の運営

塩山清之助

「舞踊」の現況

景安 正夫

座談会

内外の音楽事情

(出席者) 三石 精一・辰巳 明子・大島 幾雄
西沢 敬一・(司会) 福原 信夫

解説

芸術文化振興のための施策について

文化庁文化部文化普及課・芸術課

編集後記

▽国語審議会における審議に関連して、昭和五二年八月に国が実施した「国語に関する世論調査」は、全国の二〇歳以上の者一万人を対象にして、ことばについての国民の意識を調べたものです。それによると、漢字・ひらがな・カタカナなど、ふだん使っている文字に関心をもっている者は三〇%、ことばづかいが乱れてきていると思う者は七〇%、敬語の使い方が気になるほうだという者五〇%、方言は別にして、今までに自分の話し方やことばづかいについて恥ずかしくなったことや困ったことがあった者五三%等々の結果がでています。
▽この調査結果の解釈の仕方は様々でしょうが、国では、国語に対する意識を高め、国語を大切にすることを期待して、国民各層から広く関心の持たれていることばに関する問題を取り上げ、分かりやすく解説などを加えた「ことばシリーズ」を刊行しています。
▽また、このほどビデオテープによる新シリーズの作成にも着手し、既に「言葉のしつけ」、「敬語—謙讓語」、「あいさつ」の三種を完成させ、都道府県教委や視聴覚ライブラリー等に配布しています。国語問題の特集を機に紹介してみました。(企画室)

MEJ 61 月刊 「文部時報」 11 月号 第1254号

著作権
所有

文 部 省

昭和56年11月5日 印刷
昭和56年11月10日 発行

発行所 株式会社ぎょうせい

定価 250円 (〒50円)

本社 東京都中央区銀座7丁目4番12号
(郵便番号 104)

年間購読料 3000円 (〒共)

(営業所) 東京都新宿区西五軒町52番地
(郵便番号 162)

電話 東京 (268) 2141 (代表)

振替口座 東京9-161番

印刷所 株式会社行政学会印刷所

- ・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます
- ・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店をお願いします

文部時報

昭和五十六年十二月
第一二五五号

特集 ■ 芸術文化の振興

芸術文化振興の根本問題……………犬丸 直…4

▽てい談
これからの美術館……………8

(出席者) 河北 倫明・倉田 公裕・財津 永次

公立文化会館の運営……………塩山清之助…21

「舞踊」の現況……………景安 正夫…27

▽座談会
内外の音楽事情……………33

(出席者) 三石 精一・辰巳 明子・大島 幾雄

西沢 敬一・(司会) 福原 信夫

青少年芸術劇場の巡回公演から……………加藤 衛…46



▽解説

芸術文化の振興に関する施策について……………文化庁文化部…51

随想

インテリの一五分遅れ……………小川 平二…70

岳 詰め作家……………三好 京三…72

第一三期中央教育審議会発足……………大臣官房企画室…63

東京工業大学大岡山・長津田間……………池辺 洋・清水 康敬…74

総合情報伝達システム……………大和 淳二…92

連載第4回 **唱歌のあゆみ**

大正から昭和へ……………大臣官房調査統計課…80

●海外教育ニュース……………大臣官房企画室…90

「協同教育」は成長株(アメリカ合衆国)／……………大臣官房企画室…90

幼稚園の拡充状況と教育の動向(西ドイツ)……………大臣官房企画室…90

●文部省のまじ……………大臣官房企画室…90

「二一世紀の生涯教育」今後の生涯……………大臣官房企画室…90

教育に関するデルファイ調査報告書……………大臣官房企画室…82

文教施策連絡協議会終わる……………大臣官房企画室…90

文化財紹介 ●妙義神社本殿・幣殿……………大臣官房企画室…90

拝殿 (浜島正士)

名作シリーズ ●山水図……………大臣官房企画室…90

(解説) 原田 実…69

■次号目次……………大臣官房企画室…90

表紙 藤沼和枝 カット 赤羽根秀一



唱歌のあゆみ

連載第四回

大正から昭和へ

大和淳 二

一 祝日、大祭日と唱歌

前号では、明治四三年に至って初めて直接文部省編集の唱歌集「尋常小学読本唱歌」が刊行されたところまで稿を進めてきた。

この書は、その書名及び緒言からも明らかな通り、尋常小学読本の中の韻文に曲付けしたものである。いわば国語学習の補助的作品とも解されるものであるが、唱歌という立場から考えるとき、この歌集が作成されたことは、続いて刊行された「尋常小学唱歌」の原型とも考えられるもので、体裁的にもこの形態がその後も踏襲されることになる。

話が逆に戻るようであるが、明治期に見落とすことのできないもう一点の唱歌集には、明治二六年八月一二日

文部省告示第三号として官報第三〇三七号に公示された「祝日大祭日歌詞並楽譜」がある。このために文部省は明治二四年一〇月二〇日「祝祭日唱歌審査委員会」を設置し、東京音楽学校校長村岡範為を委員長として一五名の委員と、音楽学校備教師R・ディットリッヒを顧問として任命している。更に、この事業を重視した現われとして委員会発足の月(二四年一〇月)には、東京音楽学校職員全員に対して、祝祭日歌詞楽譜選定事業の補助を命じている。

後に、三二年にはこの「祝日大祭日唱歌重音譜」という合唱曲集が東京音楽学校から刊行されているが、その曲目は次の八曲である。「君が代」「勅語奉答」「一月一日」「元始祭」「紀元節」「天長節」「神嘗祭」「新嘗祭」

二 大正から昭和へ(文部省唱歌の変遷)

明治末年から大正初頭にかけて逐次刊行された「尋常小学唱歌」は大正全期を通じ、更に昭和七年まで続いて「新訂尋常小学唱歌」に引き継がれていく。「新訂尋常小学唱歌」に改訂された際の増補、削除の状況は下表の通りで大きな傾向としては、尋常小学唱歌の流れがそのまま受け継がれていると考えることができる。

そしてこの教科書の系列は、昭和一六年に国民学校芸能科音楽に移行するまで継続する。そこで昭和一六年三月一日国民学校令の公布、続いて同一四日国民学校令施行規則の公布、そして同年四月一日から実施ということになる。

このような学制の改正に伴って「唱歌科」から「音楽」への教科構想の転換、及び教科書作成の基本理念となった施行規則第一四条を参照し、唱歌から音楽への改革の要点を探ってみる。

『第十四条 芸能科音楽ハ、歌曲ヲ正シク歌唱シ、音楽ヲ鑑賞スルノ能力ヲ養ヒ、国民的情操ヲ醇化スルモノトス。初等科ニ於テハ、平易ナル単音唱歌ヲ課シ適宜輪唱歌及重音唱歌ヲ加ヘ、且音楽ヲ鑑賞セシムベシ。又器楽ノ指導ヲ為スコトヲ得。歌唱ニ即シテ適宜楽典ノ初步ヲ授クベシ。歌詞及楽譜ハ国民的ニシテ、児童ノ心情ヲ快活純美ナラシ

| 学年 | 尋常小学唱歌 歌曲数 | 削除数 | 増補数 | 新訂尋常小学唱歌 歌曲数 |
|----|---------------|-----|-----|-----------------|
| 1 | 20 | 0 | 7 | 27 |
| 2 | 20 | 3 | 10 | 27 |
| 3 | 20 | 4 | 11 | 27 |
| 4 | 20 | 3 | 10 | 27 |
| 5 | 20 | 0 | 7 | 27 |
| 6 | 19 | 4 | 12 | 27 |

メ、徳性ノ涵養ニ資スルモノタルベシ。……以下略(傍点筆者)

「唱歌」から「音楽」への移行によって歌唱だけの学習から、初めて鑑賞、器楽を含めた音楽学習への発展が見られるが、この発想も実際には第二次大戦の深刻化に伴い、所期の目的を達するまでに至らなかったことは周知の通りである。

三 世相を反映する歌詞の改変

日本の箏曲古謡の「さくらさくら」の歌詞がその元歌としては「さくら さくら、弥生の空は、見渡す限り、霞か雲か、においぞいずる。いざや いざや、見に行かん」と広く歌われていたが、国民学校「うたのほん」では「さくらさくら、野山も、里も、見渡す限り、霞か、雲か、朝日に にはふ、さくら さくら、花ざかり」と

| 尋常小学唱歌 | 国民学校芸能科音楽 | 戦後の文部省教科書 |
|--|--|--|
| <p>日の丸の旗 (1年)</p> <p>1 日に旗く 日の丸染めて、 あうつくしや 日本の旗は。</p> <p>2 朝日の昇る 勢見せて、 ああ勇ましや 日本の旗は。</p> | <p>ヒノマル (1年)</p> <p>1 アオソラ タカク ヒノマル アゲテ アア、ウツクシイ ニホンノ ハダハ。</p> <p>2 アサヒノ ノボル イキオヒ ミセテ、 アア、イサマシイ、 ニホンノ ハダハ。</p> | <p>日のまる (1年)</p> <p>1 しるじに あかく 日のまる そめて、 ああ、うつくしい、 にほんの はたは。</p> <p>2 あおぞら たかく 日のまる あげて、 ああ、うつくしい、 にほんの はたは。</p> |
| <p>春の小川 (4年)</p> <p>1 春の小川は さらさら流る。 岸のすみれや れんげの花に、 にほいめでたく 色うつくしく 咲けよ咲けよと ささやく如く。</p> <p>2 春の小川は さらさら流る。 蝦やめだかや 小鮒の群に、 今日も一日 ひなたに出て 遊べ遊べと ささやく如く。</p> <p>3 春の小川は さらさら流る。 歌の上手よ、いとしき子ども、 声をそろえて 小川の歌を うたえうたえと ささやく如く。</p> | <p>春の小川 (3年)</p> <p>1 春の小川は さらさら行くよ。 岸のすみれや、れんげの花に、 すがたやさしく、色うつくしく 咲いているねと、ささやきながら。</p> <p>2 春の小川は さらさら行くよ。 えびやめだかや、小ふなのむれに 今日も一日 ひなたでおよぎ、 遊べ遊べとささやきながら。</p> <p>(第3節は 削除)</p> | <p>春の小川 (3年)</p> <p>1 春の小川は サラサラいくよ。 きしのすみれやれんげの花に、 すがたやさしく、色うつくしく さけよさけよと、ささやきながら</p> <p>2 春の小川は サラサラいくよ。 えびやめだかや小ふなのむれに、 きょうも一日ひなたでおよぎ あそべあそべと ささやきながら。</p> <p>(第3節は 削除)</p> |
| <p>村の鍛冶屋 (4年)</p> <p>1 鑪時もやまずに 槌うつ響。 飛び散る火花は はしる湯玉。 籬の風さえ 息をもつかず、 仕事に精出す 村の鍛冶屋。</p> <p>2 あるじは名高き いっこく老翁 早起早寝の病知らず、 鐵より堅しと ほこれる腕に 勝りて堅きは 彼がこころ。</p> <p>3 刀はうたねど 大鎌小鎌 馬鐵に作鐵 鑄よ 鑄よ。 平和のうち物 休まずうちて 日毎に戦ふ 攘夷の敵と</p> <p>4 かせぐにおひつく 貧乏なくて、 名物鍛冶屋は 日々に繁昌。 あたりに類なき 仕事のほまれ、 槌うつ響きにまして高し。</p> | <p>村の鍛冶屋 (4年)</p> <p>1 しばしも休まず ちち打つ響き。 飛び散る火花よ、はしる湯玉。 ふいごの風さへ 息をもつかず、 仕事に精出す村の鍛冶屋。</p> <p>2 あるじは名高い いっこく者よ。 早起き早寝の、やまひ知らず、 鐵より堅いと じまんの腕で、 打ちだす刃物に 心こもる。</p> <p>(第3、4節は 削除)</p> | <p>村の鍛冶屋 (4年)</p> <p>1 しばしもやまず、ちちうつびき とびちる火花よ、はしる湯玉。 ふいごの風さえ いきをもつかず、 しごとにせいだす 村のかじや。</p> <p>2 あるじはなだかい はたらき者よ 早おき早ねの やまい知らず。 なか年きたえた じまんのうでで うちだすすきく心こもる</p> <p>(第3、4節は 削除)</p> |

改められている。このように国民学校芸能科音楽を境に、それまで歌われていた歌のいくつかについて改作が行われている。それらの中から「日の丸」「春の小川」「村の鍛冶屋」の三曲を例にとり比べてみる。

ここに示したものは戦前から戦後への改変の一例に過ぎないけれども、そのように改められた主な着眼点を類推してみると、次の二点が考えられる。①文語体から口語体への修正②戦前、戦中の軍国主義的語句の修正、である。

なぜ、どのような基準によって特に①の理由による改変が行われたかの点については、次に掲げる小学校令施行規則改正による国民学校令施行規則(昭和一六年三月一四日省令第四号)第四条の国語科に関する内容が、芸能科音楽に関する唱歌の歌詞についても重要な波及力をもつたものと理解することができる。

『第四条 国民科国語ハ日常ノ国語ヲ習得セシメ其理會力ト發表力トヲ養ヒ国民的思考感動ヲ通ジテ国民精神ヲ涵養スルモノトス。国語ニ於テハ読み方綴リ方書キ方話シ方ヲ課スベシ……読み方ハ児童ノ生活ニ即スル言語ヨリ始メ日常ノ言語ヲ基礎トスル口語文ニ進ミ更ニ平易ナル文語文ニ及ブベク……以下略』

右の文中で歌詞に直接関係することは、

○児童ノ生活ニ即スル言語……低学年

○日常ノ言語ヲ基礎トスル口語文……中学年

○平易ナル文語文……高学年

というような段階づけと察することができる。このことを念頭に置いて、先に例示した歌詞の改変を振り返ってみると、一年生の日の丸、三年生の春の小川、四年生の村の鍛冶屋、それぞれに辻褄が合っているようである。また、高学年の場合には、平易なる文語文ということが明記され、それらの歌詞については、おぼろ月夜、ふるさと、四季の雨などを見ても、全く手つけずにそのまま歌い継がれている。

今日になっても、この歌詞の修正の件についていろいろの見解が述べられているが、それは詩としての文学的な立場によるものとはかくとして、幼い頃に「さらさら流る」と覚え、慣れ親しんで歌ってきたことが、いつの間にか「さらさらいくよ」になってしまったのは、もう自分の親しんだ歌とは別のものになってしまった、というような感情的な違和感が潜在しているためかも知れない。

また、そのような素朴な理由が根強く残っているとすると、唱歌と呼ばれるものと、人の心との深いつながりがあるように思えるのである。(初等中等教育局視学官)

次 号 目 次

特集 後期中等教育の諸課題

年頭所感 小川文部大臣

世界の後期中等教育 天城 勲

座談会

新高等学校学習指導要領の実施に当たって

(出席者) 増田 信・赤木 公・奥田 真丈

田中 藤吉・(司会) 中島 章夫

高等学校教育の多様化と生徒指導 間宮 武

高等学校教育と進路指導 中西 信男

最近の諸外国における職業教育の動向 池本 洋一

解説

特殊教育諸学校における後期中等教育について

初等中等教育局特殊教育課

高等専修学校について 管理局企画調整課

編 集 後 記

▽本誌では、編集内容をより充実したものにすための一つの方法として、九月号にアンケート用紙を綴じ込み、皆様の御回答をお願いしました。▽その結果をみますと、最近の記事で評判の良かったものとして挙げられた特集は「生涯教育」(56年8月)、「放送大学」(56年7月)、「生徒指導の充実」(56年6月)、「国際障害者年」(56年5月)などが、また、個別の論文等では、伊藤正己氏「地域社会と生涯教育」(55年2月)、山崎正和氏「生涯教育と文化」(55年11月)、松原治郎氏「家庭環境と家庭教育」(56年8月)など生涯教育に関連したものが数多く出てきていました。▽また、今後希望する特集テーマとしては、校内暴力・非行対策、文政行政の展望とその実績、社会教育、行政改革と文教政策、社会道徳教育の充実等々三〇項目を越すテーマが寄せられました。▽「生涯教育については引き続き取り上げてほしい」などという希望と並んで、「二五〇円でこれだけの内容は参考になり大変良い」、「最近の文部時報はおもしろくなってきた」等々のおほめもいただいています。回答の御協力ありがとうございました。(企画室)

MEJ 61 月刊 「文部時報」 12 月号 第1255号

著作権
所有

文 部 省

昭和56年12月5日 印刷
昭和56年12月10日 発行

発行所 株式会社ぎょうせい

定価 250円 (〒50円)

本 社 東京都中央区銀座7丁目4番12号
(郵便番号 104)

年間購読料 3000円 (〒共)

(営業所) 東京都新宿区西五軒町52番地
(郵便番号 162)

- ・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます
- ・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店をお願いします

電話 東京 (268) 2141 (代表)
振替口座 東京9-161番
印刷所 株式会社行政学会印刷所

文部時報

昭和五十七年一月
第一二五六号

特集 後期中等教育の諸課題

| | | |
|-----------------------|----------------|----|
| 年頭の所感 | 文部大臣 小川 平二 | 4 |
| 世界の後期中等教育 | 天城 勲 | 9 |
| ▽座談会 | | |
| 新高等学校学習指導要領の実施に当たって | | 13 |
| (出席者) 増田、信・赤木 公・田中、藤吉 | | |
| 奥田、真丈・(司会)中島 章夫 | | |
| 高等学校教育の多様化と生徒指導 | 間宮 武 | 28 |
| 高等学校教育と進路指導 | 中西 信男 | 34 |
| 最近の諸外国における職業教育の動向 | 池本 洋一 | 40 |
| ▽解説 | | |
| 特殊教育諸学校における後期中等教育について | 初等中等教育局特殊教育課 | 46 |
| 高等専修学校について | 管理局企画調整課 | 56 |
| ▽資料 | | |
| 習熟度別学級編成の実施状況 | 初等中等教育局高等学校教育課 | 62 |

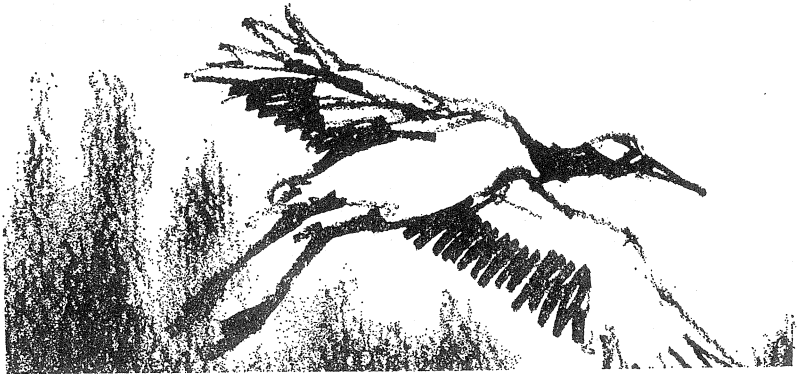
中学生の高等学校における体験入学の実施状況について

| | | |
|--------------|--------------|----|
| 事例紹介 | | |
| 特色ある学校づくり | 東京都立第二商業高等学校 | 72 |
| 本校における勤労体験学習 | 愛知県立安城東高等学校 | 76 |
| 随想 | | |
| 創造的着想 | 広中 平祐 | 82 |

連載第5回(最終回)

唱歌のあゆみ

| | | |
|--|---------|----|
| 校歌とは——そのプロフィール—— | 大和 淳二 | 92 |
| ●海外教育ニュース……大臣官房調査統計課 | | 84 |
| 一九七〇年代の大学生数の動き(アメリカ合衆国)／国語の全国学力調査結果報告書(イギリス)／総合制学校をめぐる情勢(西ドイツ) | | |
| ●文部省のまご | | |
| 第一三期中央教育審議会第二回総会の開催 | 大臣官房企画室 | 87 |
| 新長期高等教育計画について大学設置審議会が検討を開始……大学局高等教育計画課 | | 87 |
| 文化財紹介●過所船旗(安達直哉) | | |
| 名作シリーズ●新三十六歌仙図・藤原俊成女(解説 小林忠) | | 81 |
| 次号目次 | | |
| 表紙 松下和枝 カット 内部敬生 | | |



唱歌のあゆみ

連載第五回（最終回）

校歌とはは — そのプロフィール —

大和淳 二

「近頃はやりのバス旅行でも、いろいろと歌い終ったあとに、皆で一語に歌えるものを何か歌おう、という」と必ず「校歌を歌おう！」という声が出て、皆が生き生きとした表情で歌う」ということをある先生が語っていた。

国歌にはじまり、校歌、応援歌、旧制高校の寮歌等集団の大小を問わず、日本人はとりわけ、そのような歌を好むのかも知れない。そういえば、昨年海外派遣の一団としてスウェーデンの先生方と一夕の交歓会をもったとき、最後に先方の先生方が国歌を合唱してくれたことがあった。それはいとも軽快で、さわやかな美しい旋律でその場の雰囲気じびったりしたものであったが、思い合わせてみると、日本だけのことでもないようである。ある集団の連帯感を強め、共通の感覚を深める上で、校歌な

どは意外と大きな役割りを果たしているものであろう。そのような意味も含め校歌のプロフィールを明かにしたいということから、先ず身近かな、東京都の小学校の校歌を中心にボツボツと集め出し、現在は多少全国的にも拡がってきた。今回は、東京都の山手、下町、市部からの無作意に抽出した五〇校の校歌を中心に、歌詞と楽曲の傾向についてまとめてみることにする。このことも、今月まで四回にわたって連載した文部省唱歌を中心とした「唱歌のあゆみ」と無関係とは思えないので、それらのまとめの意味にもなれば幸と考えている。

一 親しまれる校歌とは

現在の小学校校歌を大まかに分類してみると、次のようにまとめられるかも知れない。

I 戦前作品↓敵襲型↓教訓型↓儀式型

II 戦後作品↓親近型↓生活型↓日常型

この分類は一応歌詞によるものであるが、Iに属するタイプは、どちらかといえばむずかしい文語体の歌詞が目立ち、学校自体も創立百周年以上を迎えたというようなところに多い。

歌詞の部分的抽出で失礼ではあるが、例えば次のようなものも見られる。

- ・ながめ はるけき ふみの窓
 - ・光ます たかなるじちに かねのねも
 - ・親もしたう師の君の あつき恵に浴しつ
 - ・緑もえたつ堤北の 学びの園の百千草
- など、それぞれに高い格調を保ち、詩としてのよさは当然のこととしても、小学校一、二年生のあどけない顔も思い浮かべると、多少バランスのことが気にならなくもない。

一年生から六年生まで、発達段階の差の大きい全校の児童に理解させるとなると、そのことを望むこと自体が、無理な注文といえるかも知れない。

ちなみに、よく話題になる文語体の理解力の一例であるが「うきさきおいらの山」という名曲「ふるさと」「の歌詞を」うきさき追ひ、鹿の山」と理解したり、「思い出

（ベイリー曲）「垣に赤い花咲く」を「柿に赤い花咲く」と思ったり、日本語のイントネーションとメロディーとのかかわりはともかくとして、理解力についてのある側面を物語っているようである。

二 歌詞に見られるイメージの特色（富士）

東京の校歌の象徴として歌い込まれている「富士」は、歴史の深い学校のほぼ七〇％近くに見られる。新設校のような場合は、高層ビルにさえぎられて仰ぎ見ることもできず、次第に用いられなくなっているのも、校歌の歴史の一面と見ることができよう。次に、それらの実例を引用させて頂くことにする。

- ・富士が呼んでる 大空はるか ・富士を見晴らす か
- ・富士が呼んでる 遥かに高く ・富士も輝く平
- ・和な町だ ・富士の姿を仰ぎつつ ・富士の姿を遠く見
- ・富士の気高さ 遥かに仰ぎ ・富士の横望む 多
- ・遠くで富士が見ているよ ・平和の富士も輝
- ・空遠く そびゆる富士の気高さを ・夕虹映ゆ
- ・富士が嶺の ・窓に見る 富士の高ねをそのままに
- ・窓に眺める気高い富士の ・清き姿の富士の嶺を
- ・そびゆる富士の影高く ・かわらぬ富士を窓に見て
- ・はるかたりしろたえの富士 ・朝陽に映える富士が嶺と
- ・見晴らす富士は遠く清く ・遥かに仰ぐ富士が嶺の

楽曲に見られるイメージの特色（7つの視点から）

| 1 | 調 | % | 2 | 拍子 | % | 3 | 小節数 | % | 4 | 曲態 | % | 5 | 文体 | % |
|------------|------|--------|--------|--------|--------|---------|-----|----|--------|------|----|-----------|----------|-----|
| 調について | ハ長調 | 42 | 拍子について | 4拍子 | 90 | 小節数について | 16 | 34 | 曲態について | 単旋律 | 74 | 歌詞の文体について | 口語体 | 30 |
| | ヘ長調 | 42 | | 2拍子 | 10 | | 20 | 28 | | 部分2部 | 18 | | 平易な文語体 | 40 |
| | ト長調 | 6 | | その他 | 0 | | 24 | 10 | | 全曲2部 | 6 | | やや難解な文語体 | 30 |
| | ニ長調 | 6 | | | | | 30 | 6 | | 部分3部 | 2 | | | |
| | 変ロ長調 | 4 | | | | | その他 | 22 | | | | | | |
| 6 | 項目 | 最も多いもの | % | 7 | 音域について | | | | | | | | | |
| 最も多く見られる傾向 | 歌詞の節 | 3番まで | 80 | 音域について | ① | 0% | ② | 3% | ③ | 10% | ④ | 15% | ⑤ | 48% |
| | 文体 | 平易な文語体 | 40 | | ⑥ | 15% | ⑦ | 0% | ⑧ | 6% | ⑨ | 3% | | |
| | 共通詞? | 富士 | 68 | | ハ長調 | 〜 | 長調 | | | | | | | |
| | 調 | ハ・ヘ長調 | 各42 | | ド | 〜 | レ | ソ | 〜 | ラ | | | | |
| | 拍子 | 4分の4拍子 | 90 | | 小節数 | 16 | 小節 | 34 | 曲態 | 単旋律 | 74 | | | |

・遙かに高し富士の嶺 ・遙かに富士も うかんでる
 ・かがやく富士です 美しい
 などなど、実に多くの校歌に富士が歌われていることがわかり、歌詞の上での東京という土地柄を表わしているといえる。全国それぞれにこのような土地柄を表わす歌詞を洗い出してみるのも面白いことであろう。

三 楽曲に見られるイメージの特色（七つの視点）
 歌詞の特色は多分に地域的であるのに対して、楽曲そのものは、全国的に共通な要素を含んでいるものと見ることができるようである。以下、簡潔に七つの視点から概観してみることにする。ここに表示してある集計基礎は冒頭にも述べた通り、一応都内小学校抽出の五〇校を資料としているものである。従って大まかな傾向を察知する程度のものであり、受けとめて頂ければ幸である。

特に補説を要する点は、楽譜で示した音域についてであるが、ハ・ヘ長調が四八％ということ、一番多いハ長調及びヘ長調のそれぞれドレ、また、ソラに当たり、最も歌い易く、作り易いという理由も考えられる。唱歌のあゆみという点から、文部省唱歌に関する概略を四回ご覧頂き身近かな校歌に至って結末としたい。

（初等中等教育局視学官）

特集 児童生徒の健康増進

児童生徒の健康増進と学校、家庭、地域の連携

船川 幡夫

座談会

たくましい体と豊かな心を育てる

(出席者) 高石 邦夫・長井新次郎・小野 三嗣

上出 弘之・(司会)森脇 英一

最近における児童生徒の健康問題と保健活動

平山 宗宏

児童生徒の健康問題と健康教育

植村 肇

事例紹介

学校保健推進地区の活動

山口県防府市

家庭、地域との連携を密にした

愛知県豊川市立

健康増進のための活動

天王小学校

解説

学校における児童生徒の健康増進について

体育局学校保健課

▽旧ろう二八日には、対前年度比一、六八〇億円の増、総額五兆二〇〇億円の五七年度文部省所管予算案がましまりました。これを基調にした文教行政の展望については本誌四月号で特集いたしました。今回の予算編成の特色の一つは、文教行政の重点を「生徒指導の充実」と「生涯教育の充実」において臨み、成果をあげたことです。前者は総額五二億円(対前年度比九億円増)、後者は六八億円(同一億五千万円増)でした。

▽財政事情の厳しい状況の下で文教行政を効果的に進めるためには、重要な指針に従って個別の施策を総合的に、あるいは集中的に展開することが求められるところであります。生徒指導の充実は、さきに小川文相の主唱になる「豊かな心を育てる施策の推進」に深くかわり、また、生涯教育の充実は、昨年六月の中央教育審議会の答申「生涯教育」の趣旨にそった施策を推進するものです。

▽本誌の特集でも、定められた特集テーマの下であっても、できるだけ関連する多くの視点からの論文を取り込む編集に心がけてまいります。

本年も引き続き御購読のほどお願いいたします。(企画室)

MEJ 61 月刊 「文部時報」 1 月号 第1256号

文 部 省

昭和57年1月5日 印刷
昭和57年1月10日 発行

著作権
所 有

定価 250 円 (〒50円)

発行所 株式会社きょうせい

年間購読料 3000 円 (〒共)

本 社 東京都中央区銀座7丁目4番12号
(郵便番号 104)
(営業所) 東京都新宿区西五軒町52番地
(郵便番号 162)

電話 東京 (268) 2141 (代表)
振替口座 東京9-161番
印刷所 株式会社行政学会印刷所

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます
・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはもよりの書店にお願いします